



講演のもよう

# 土砂災害対策の現状など

## 防災講演会に110人

会主催  
技術士  
建設

(公社)日本技術士会中  
国本部(大田一夫本部長)  
と(一社)建設コンサルタ  
ンツ協会中国支部(小田  
秀樹支部長)が主催する  
『平成27年度第2回防災  
講演会』をみんなで考える  
土砂災害/被災地の砂防  
計画』が24日、広島市  
中区のまちづくり市民交

流プラザであった。約110人が参加し、土砂災害対策の現状や最新の砂防技術などに理解を深めた。

はじめに主催者を代表して大田本部長が開会挨拶。一昨年に発生した広島土砂災害などを振り返りながら、「災害の危険性を住民に伝えて、災害に備えてもらう」という活動は、我われの専門性が特に発揮しやすい分野。そのため、東日本大震災以降に始めたこの防災講演会では、市民に対する防災教育を中心に実施してきた。だが、今回は少し興きをかえ、ハード対策で計画・調査・設計にたずさわる建設コンサルタントの技術者、あるいは技術士の資質向上を目的に開催を企画した。本日の講演会が、皆さんの資質向上に役立つことを願って

いる」と述べた。

講演会では、中国地方整備局河川部の川本洋次郎土砂防災対策分析官が『中国地方の土砂災害対策の現状』を演題に基調講演。透過型砂防堰堤と不透過型砂防堰堤の違いや、広島土砂災害の緊急事業では「ソイルセメントを砂防堰堤25基中10基で採用した」ところなどを説明した。また、近年、流木が砂防堰堤を越えて流出し、被害を発生させるケースが確認されていることから、当面の対策なども分かりやすく解説した。

このほか、話題提供として、実際に広島土砂災害の現場で採用された『INSEM工法』(㈱インバックス)や『強靱ワイヤーネット工』(東亜グラウト工業㈱)に関する技術説明なども行われた。